



学長就任挨拶

この度、学長に就任し、大学運営に責任を負うこととなりました。二松学舎大学の発展に尽くすため粉骨砕身の覚悟で取り組む所存でございます。何卒宜しくお願い申し上げます。

グローバル化や少子高齢化、デジタル技術の高度化など社会全体が大きく変貌する中、日本の大学は、次代を担う人材を育成すべく、様々な変革が求められています。近年では、大学教育の質の保証という観点で、各大学は自らの責任において自大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果をもとに教育改善に取り組んでいます。もちろん、本学でもこうした教育改善への取り組みを積極的に進めており、学修者本意の教育の実現に向けて日々対応に努めていますが、その対応すべき内容は多岐にわたり、まだまだ改善・改革に

向けての取り組みを推進する必要があります。また、SDGsやカーボンニュートラルなど社会全体で取り組むべき事項や、DXなどに関しても、規模や教育研究分野等にかかわらず、大学としての対応が必要になってきています。

このように、今後大学として本学が取り組むべきことは山積しており、いずれも容易に対応できるものではありません。対応すべき項目によっては、変革を伴う取り組みが必要になることも少なからず出てくることでしょう。

社会状況の変動や大学の変革が求められる変化の時代にこそ、私立大学の原点である建学の理念の再確認が必要だと思います。本学は、激動の明治初期において三島中洲先生が、「己ヲ修メ人ヲ治メ一世ニ有用ナル人物ヲ養成ス」との理念を掲げて漢学塾二松学舎を創設したことに始まります。この理念は、現代的に解釈すれば「自ら考え行動できる能力を鍛え、社会のために貢献する人物を養成する」となりますが、これはまさに今の時代に求められる人物像ではないでしょうか。

本学は、本年で創立146年となりますが、この長い歴史と伝統の重さを十分に認識し、建学の理念を時代に即したものとして継承しつつ、学長として責任をもって今後の大学運営に努めたいと考えておりますので、皆様のご協力とご支援をお願いいたします。

二松学舎大学 学長

中山政義

2年連続 7度目の春の甲子園出場

—4年ぶりに本来の大会らしさを取り戻す—

第95回記念選抜高等学校野球大会(3月18日～4月1日)に、二松学舎大学附属高等学校が2年連続7度目となる春の甲子園に出場した。



今年の春の甲子園は、新型コロナウイルスの感染対策が緩和され、4年ぶりに出場校全36校の選手全員が開会式に参加し入場行進するなど、従来の大会の姿が戻りつつある大会となった。

附属高等学校の初戦は大会3日目となる3月20日の第2試合、2018年の夏の甲子園で対戦し勝利を収めた広陵高等学校(広島県)と対戦。2回以降毎回走者を出すも、自分たちのリズムを作れず徐々に点差が開き5-0で広陵高等学校に軍配が上がり、附属高等学校野球部の春の甲子園は幕を閉じた。

今大会は観客席のガイドラインも緩和され、応援三部(吹奏楽部・チアリーダー部・応援同好会)をはじめ多くの生徒や保護者、関係者が応援に駆け付け、



選手たちに声援を送った。この悔しさをばねに、3年連続6度目の夏の甲子園出場を期待したい。



2023年度 入学式

希望を胸に、
新しい生活をスタート

春の兆しを感じはじめた4月上旬、各設置校で2023年度入学式が行われました。
新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！



大学・大学院

2023年4月4日
中野サンプラザホール

2023年度二松学舎大学入学式が挙行され、大学・大学院計849名が入学した。式典には新入生と教職員が出席し、保護者へはライブ配信を行った。

中山政義学長は入学許可宣言に続く式辞で「自分の将来のために必要な知識を身に付



期待と不安が入り混じる入学式

けたいのなら、主体的に行動することが必要です。大学生活の全般において、大きな自由が与えられている反面、その環境を活かし謳歌するためにはしっかりと自主的的判断と、大人としての態度が求められます」と新入生に呼びかけた。

水戸英則理事長の祝辞は書面で新入生に配付され、「大学で学ぶことは、豊かな知識を身に付け、そしてその知識を背景に現実の社会や現象を眺め、課題の本質を突き止め、一つの解を導き出す力、その上で新たな価値を創り出す力を養うことだと思います」とし、さまざまな困難を乗り越える適応力を二松学舎大学で身に付けてほしいとエールを送った。新入生代表の挨拶は、国際政治経済学部国



新入生代表挨拶の様子

際政治経済学科の川端下耀司かわは けようじさんが行い、これから始まる大学生活への決意を語った。

スーツを身にまとい、少し緊張気味な新入生たちは、終始真剣な表情で式典に参加。これから始まるキャンパスライフに期待と不安をにじませつつも、希望にあふれた式典となった。

附属高校

2023年4月8日
日本教育会館一ツ橋ホール

第76回入学式が挙行された。今年度の入学式は、新入生、教職員の他、保護者（最大2名）も参列。生徒および教職員は基本、マスクを外して参加するなど、従来の入学式に近い形で式典が行えたのは実に4年ぶりとなった。

新入生262名の名前が各学級担任から呼ばれると、緊張しながらも一人一人が元気に返事・起立し、新入生らしい明るく初々しい姿が見られた。

鵜飼敦之校長は、入学許可宣言後の式辞で「新入生の皆さん、皆さんはコロナ禍において、さまざまな制約がある中で多くの困難を乗り越え、本日、二松学舎大学附属高等学校の生徒として、夢と希望に満ち溢れた高校

生活の第一歩を踏み出しました。二松学舎での学びを通して、自分自身もつ夢や希望を追い続け、その実現に向けて、充実した3年間を送ってくれることを期待しています」と祝福と激励の言葉を送った。

新入生代表として1年A組の高橋陽太たかはしやうたさん



262名の新入生を迎えた入学式

が「誓いの言葉」を、在校生代表として生徒会長の3年E組の岡田さくらおかださんが「歓迎の言葉」を述べた。

式典後には、学級担任の紹介があり、学年主任の野木繁教諭から入学のお祝いとエールが送られた。



マスクを外した式典は実に4年ぶり

附属柏中学校・高校

2023年4月7日
体育館

附属柏中学校第13回、高等学校第55回入学式が挙行された。今年度は中学校95名、高等学校259名の生徒が附属柏中学・高等学校の新たな仲間として加わった。

七五三和男校長は、入学許可宣言後の式辞で「お互いを高めあう、真の友人をつくっ



附属柏中学校・高校の式典の様子

てほしい。自分にはないものを友から学び取り、自分を向上させてください」と新入生にメッセージを送った。そして、論語にある『歳寒くして、然る後に松柏の彫むに後るを知る（人も大事に遭遇してはじめて、その人の本当の価値が現れる）』を例に挙げ、「レジリエンス（復元力）を備え、力強く成長して欲しい」と激励した。

式典では、中学校を代表して1年A組の勝嶋愛衣菜かつしまあいなさんが自分らしさを見つけるべくさまざまなことに挑戦することを、高等学校を代表して1年2組の黒澤舞南くろさわまうなさんが仲間と共に感謝の気持ちを持って3年間の高校生活を送ることをそれぞれ新入生代表として誓った。

式の間、緊張の面持ちだった新入生たちも、

初めてのクラスホームルームを終えるとほっとした表情で、校内に咲く桜や、これから学校生活を送る校舎をバックに記念撮影をする姿などが見られた。

新しく出会った仲間と切磋琢磨しながら、勉強や部活動に励む、附属柏中学校・高等学校での学校生活がスタートした。



中学校代表・勝嶋愛衣菜さん



高校代表・黒澤舞南さん

2023年度入試結果

大学【文学部】

試験種別	志願者	合格者
学校推薦型選抜	178	178
総合型選抜	総合型選抜Ⅰ期 (文章読解型)	199 / 107
	総合型選抜Ⅱ期 (課題図書型)	80 / 44
	書道実技型(前期)	9 / 7
	書道実技型(後期)	2 / 2
一般選抜	S方式 (入試奨学生選抜型)	172 / 65
	A方式(得意科目型)	501 / 174
	B方式(国語重視型)	215 / 76
	G方式(現代文重視型)	269 / 96
	C方式 (大学入学共通テスト利用 前期)	430 / 113
	C方式 (大学入学共通テスト利用 後期)	26 / 13
D方式	215 / 90	
社会人	0	0
外国人留学生	7	4
海外教育経験者	2	1
合計	2,305	970

大学【国際政治経済学部】

試験種別	志願者	合格者
学校推薦型選抜	115	115
総合型選抜	総合型選抜Ⅰ期 (読解力総合型)	55 / 52
	総合型選抜Ⅰ期 (英語資格型)	9 / 9
	総合型選抜Ⅱ期 (自己アピール型)	31 / 26
	総合型選抜Ⅲ期 (課題解決型)	36 / 28
一般選抜	S方式 (入試奨学生選抜型)	84 / 42
	A方式(得意科目型)	193 / 78
	B方式(前期2科目型)	118 / 47
	C方式 (大学入学共通テスト利用 前期)	162 / 62
	C方式 (大学入学共通テスト利用 後期)	21 / 10
	D方式(後期2科目型)	190 / 48
社会人	0	0
外国人留学生(秋季)	30	20
外国人留学生(春季)	61	18
海外教育経験者	2	1
合計	1,107	556

大学院【文学研究科】

課程	専攻	志願者	合格者
博士前期課程	国文学	11	9
	中国学	4	4
	計	15	13
博士後期課程	国文学	1	1
	中国学	2	1
	計	3	2
合計		18	15

大学院【国際政治経済学研究科】

課程	専攻	志願者	合格者
修士課程	国際政治経済学	5	1

大学院【国際日本学研究科】

課程	専攻	志願者	合格者
修士課程	国際日本学	21	15

附属高等学校

試験種別	志願者	受験者	合格者	
推薦入試	A推薦(単願)	134	134	134
	B推薦(併願)	50	44	44
	C推薦(単願)	45	44	23
一般入試	一般Ⅰ	47	46	12
	併願優遇Ⅰ	170	161	161
	一般Ⅱ	65	44	12
	併願優遇Ⅱ	90	77	77
	合計	601	550	463

附属柏高等学校

入試区分	志願者	受験者	合格者	
前期Ⅰ	A推薦	79	79	79
	B推薦	362	358	358
	一般	56	54	20
前期Ⅱ	B推薦	184	170	170
	一般	64	61	36
後期	一般	4	4	4
合計	749*	726	667	

*内部進学者89名を除く

附属柏中学校

入試区分	志願者	受験者	合格者
第一志望入試	43	43	39
総合探究①	134	122	106
グローバル特待①	126	105	68
グローバル特待②	111	53	30
総合探究②	125	26	20
全コース入試	12	11	7
合計	551	360	270

大学・大学院

2023年度入学試験は、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜および各種特別入試を実施した。

総合型選抜では、志願者の能力・適性や学習意欲、目的意識等の評価を重視し、国際政治経済学部では新たに課題解決型入試を取り入れるなど、多様な方式で入試を行った。

一般選抜では、3科目受験型のS方式入試(入試奨学生選抜型)や、2科目受験型のA・B・G方式入試(G方式は文学部のみ)、3月実施のD方

式入試の他、C方式入試(大学入学共通テスト利用)を実施した。

文学部は520名、国際政治経済学部は291名、計811名の入学者を得た。(編入学者除く)

大学院入試は、文学研究科・国際政治経済学研究科・国際日本学研究科において、10月試験・2月試験(共に4月入学)を実施し、計27名の入学者を得た。なお国際日本学研究科においては、6月試験(2023年9月入学者選抜)の実施を予定している。

附属高校

従来通り、定員250名を7つの入試カテゴリーで募集した。

生徒募集の活動としては、外部相談会、中学校や塾訪問、Zoomを使用したオンライン相談などに加え、授業見学会や部活動体験会を再開

し、学校説明会に受験生を誘導。また、学校HPに学校紹介動画を掲載し、随時更新することで、受験生の興味・関心の維持を心がけた。

この結果、志願者数は昨年の1.4倍となり、262名の入学者を迎えることができた。

附属柏高校

志願者数(内部進学者含む)は838名で、昨年1,432名に対し594名減の59%となる。推薦基準点は昨年と同様だが、2023年度入試は、進学コースの併願推薦の募集を中止し、各コースでの「推薦基準点の加

点措置」を行わなかった結果、進学コースの志願者数は減少した。これにより定員を管理し、より高い内申点を持つ受験生が志願した入試となった。一般の受験者数は、119名(昨年比113%)と近年では一番多い結果となる。

附属柏中学校

昨年度に引き続きグローバル探究コース、総合探究コースの2コースでの募集を行った。志願者数は551名と昨年度比102%であった。

第一志望入試は算数、作文型、英語から2科目を選択し、その他、全員に自己アピールと面接を行う入試

で、志願者43名、合格者39名となった。

コース別志願者は全体でグローバル探究237名、総合探究259名であり、入学者はグローバル探究34名、総合探究61名であった。グローバル特待候補者は68名でA奨学生31名、B奨学生37名であった。

2023年度 大学入学者の出身高校等一覧

学部	出身校
文学部	水海道第二
	竹園
	牛久
	日立北
	藤代紫水
	牛久米進
	並木
	明秀学園日立
	大成女子
	常磐大学
岩手	水城
葛巻	霞ヶ浦
水沢商業	東洋大学附属牛久
秋田	江戸川学園取手
大館鳳鳴	常総学院
山形	鹿島学園
米沢興譲館	つくば秀英
酒田南	第一学院 高萩校
福島	栃木
橘	作新学院
白河	群馬
会津学鳳	高崎女子
いわき湯本	吉井
茨城	高崎経済大学附属
太田第一	富岡
緑岡	高崎商科大学附属
水戸工業	関東学園大学附属
土浦第二	埼玉
土浦第三	筑波大学附属坂戸
取手第一	川越(県立)
	不動岡
	本庄
	久喜
	大宮
	蕨
	草加
	坂戸
	与野
	越谷南
	川口北
	熊谷西
	羽生第一
	春日部東
	杉戸
	浦和(市立)
	浦和北
	所沢西
	草加東
	大宮南
	伊奈学園総合
	大宮光陵
	聖望学園
	叡明
	細田学園
	山村学園
	正智深谷
	大宮開成
	本庄東
	武蔵越生
	東京成徳大学深谷
	浦和実業学園
	星野
	浦和学院
	昌平
	獨協埼玉
	西武台
	花咲徳栄
	秋草学園
	栄北
	わせがく 夢育
	千葉
	千葉女子
	千葉商業
	千葉南
	検見川
	千葉北
	若松
	船橋(県立)
	船橋東
	船橋啓明
	鎌ヶ谷
	浦安
	松戸(県立)
	松戸国際
	東葛飾
	柏(県立)
	柏南
	流山おおたかの森
	印旛明誠
	四街道
	佐原
	佐原白楊
	長生
	茂原
	大多喜
	木更津
	君津
	袖ヶ浦
	船橋(市立)
	習志野
	松戸(市立)
	磯辺
	市川東
	柏(市立)
	千城台
	津田沼
	野田中央
	船橋芝山
	松戸六実
	船橋二和
	松戸馬橋
	成田北
	市原八幡
	市川昂
	柏の葉
	幕張総合
	昭和学院
	千葉敬愛
	千葉経済大学附属
	東葉
	茂原北陵
	千葉黎明
	和洋国府台女子
	千葉英和
	敬愛学園
	二松学舎大学附属柏
	拓殖大学紅陵
	八千代松陰
	東京学館
	植草学園大学附属
	芝浦工業大学柏
	東京学館浦安
	志学館高等部
	光英VERITAS
	秀明大学校教師学部
	附属秀明八千代
	わせがく
	木更津総合
	東京
	お茶の水女子大学附属
	東京大学教育学部附属
	足立
	上野
	江戸川
	園芸
	葛飾野
	久留米西
	江北
	杉並
	第一商業
	高島
	竹台
	豊島
	日本橋
	東
	一橋
	深川
	富士
	文京
	本所
	南葛飾
	武蔵丘
	目黒(都立)
	紅葉川
	篠崎
	調布南
	城東
	砂川
	田柄
	晴海総合
	飛鳥
	大江戸
	新宿山吹
	穂ヶ丘
	板橋有徳
	葛飾総合
	共立女子
	正則学園
	武蔵野大学附属千代田
	高等学院
	東洋
	二松学舎大学附属
	三輪田学園
	成城
	保善
	関東国際
	実践女子学園
	帝京八王子
	桐朋女子
	京華
	昭和第一
	岩倉
	上野学園
	サレジオ国際学園
	成立学園
	瀧野川女子学園
	東京成徳大学
	武蔵野
	北豊島
	安田学園
	足立学園
	潤徳女子
	共栄学園
	修徳
	関東第一
	香蘭女学校高等科
	品川エトワール女子
	立正大学付属立正
	自由ヶ丘学園
	目黒学院
	多摩大学目黒
	佼成学園女子
	駒場学園
	日本学園
	和光
	大妻中野
	堀越
	國學院大学久我山
	日本大学第二
	城西大学附属城西
	美鳴
	帝京
	東京家政大学附属女子
	工学院大学附属
	八王子学園八王子
	八王子実践
	明星
	桜美林
	錦城
	拓殖大学第一
	日本体育大学校華
	明法
	NHK学園
	吉祥女子
	藤村女子
	武蔵野大学
	文華女子
	神奈川
	横浜緑ヶ丘
	横浜立野
	光陵
	市ヶ尾
	舞岡
	川崎北
	多摩
	西湘
	泰野
	大磯
	戸塚
	東
	横浜商業
	荏田
	海老名
	大船
	有馬
	釜利谷
	厚木西
	海洋科学
	横浜サイエンスフロンティア
	横浜明朋
	横浜氷取沢
	白鷺女子
	鶴見大学附属
	武相
	関東学院六浦
	横浜
	湘南学院
	三浦学苑
	横須賀学院
	カリタス女子
	平塚学園
	湘南工科大学附属
	聖園女学院
	相模女子大学高等部
	立花学園
	横浜隼人
	桐光学園
	柏木学園
	新潟
	長岡
	小千谷
	新井
	柏崎翔洋
	新潟第一
	山梨
	甲府第一
	甲陵
	富士学苑
	日本航空
	長野
	岩村田
	伊那弥生ヶ丘
	長野日本大学
	佐久長聖
	さくら国際
	松本秀峰

岐阜 麗澤瑞浪	香川 尽誠学園	クラーク記念国際 星槎国際	第一学院 高萩校	千葉 千葉女子 千葉商業 若松 国分 松戸（県立） 流山おおたかの森 印旛明誠 四街道 船橋（市立） 松戸（市立） 磯辺 市川東 千城台 柏陵 船橋二和 沼南 松戸馬橋 市川南 柏中央 実船 船橋北 市川昂 柏の葉 昭和学院 東葉 千葉黎明 敬愛学園	日本体育大学柏 二松学舎大学附属柏 中央学院 八千代松陰 植草学園大学附属 東京学館浦安 志学館高等部 秀明大学学校教師学部 附属秀明八千代 流通経済大学付属柏 翔凜 中央国際	晴海総合 飛鳥 杉並総合 美原 大泉桜 新宿山吹 葛飾総合 王子総合 錦城学園 正則学園 二松学舎大学附属 中央学院大学中央 開智日本橋学園 山脇学園 関東国際 郁文館 京華商業 昭和第一 獨協 成立学園 武蔵野 中村 修徳 関東第一 多摩大学目黒 浦田女子 東京実業 駒場学園 日本大学第三	実践学園 堀越 巢鴨 淑徳巣鴨 豊南 八王子学園八王子 八王子実践 立志舎	三浦学苑 横須賀学院 向上 横浜翠陵 柏木学園 桐蔭学園	愛媛 八幡浜 未来
静岡 伊東 沼津西 磐田農業 富士宮西 沼津中央 加藤学園暁秀	熊本 東稜	青森 青森明の星	栃木 宇都宮	東京 板橋 大山 荻窪 忍岡 墨田川 竹台 竹早 一橋 南葛飾 向丘 武蔵丘 両国 篠崎 足立新田 南平	晴海総合 飛鳥 杉並総合 美原 大泉桜 新宿山吹 葛飾総合 王子総合 錦城学園 正則学園 二松学舎大学附属 中央学院大学中央 開智日本橋学園 山脇学園 関東国際 郁文館 京華商業 昭和第一 獨協 成立学園 武蔵野 中村 修徳 関東第一 多摩大学目黒 浦田女子 東京実業 駒場学園 日本大学第三	実践学園 堀越 巢鴨 淑徳巣鴨 豊南 八王子学園八王子 八王子実践 立志舎	三浦学苑 横須賀学院 向上 横浜翠陵 柏木学園 桐蔭学園	福岡 九州産業大学付属九州	
愛知 昭和	鹿児島 鳳凰	岩手 一関第一	群馬 渋川 榛名 新島学園 前橋育英	神奈川 横浜翠嵐 瀬谷 横須賀大津 逗子 上溝南 新羽 生田東 大和南 桜丘 橋本 住吉 岸根 新栄 横浜緑園 横浜清風 鶴見大学附属 横浜商科大学 横浜学園 横浜創学館	晴海総合 飛鳥 杉並総合 美原 大泉桜 新宿山吹 葛飾総合 王子総合 錦城学園 正則学園 二松学舎大学附属 中央学院大学中央 開智日本橋学園 山脇学園 関東国際 郁文館 京華商業 昭和第一 獨協 成立学園 武蔵野 中村 修徳 関東第一 多摩大学目黒 浦田女子 東京実業 駒場学園 日本大学第三	実践学園 堀越 巢鴨 淑徳巣鴨 豊南 八王子学園八王子 八王子実践 立志舎	三浦学苑 横須賀学院 向上 横浜翠陵 柏木学園 桐蔭学園	熊本 一ツ葉	
大阪 花園	鹿嶋 宮古 N	宮城 古川 仙台育英学園	埼玉 岩槻 与野 鴻巣 大宮中央 草加南 大宮東 草加東 庄和 越谷東 三郷工業技術 聖望学園 叡明 浦和麗明 細田学園 武南 昌平 城北埼玉	新潟 十日町	晴海総合 飛鳥 杉並総合 美原 大泉桜 新宿山吹 葛飾総合 王子総合 錦城学園 正則学園 二松学舎大学附属 中央学院大学中央 開智日本橋学園 山脇学園 関東国際 郁文館 京華商業 昭和第一 獨協 成立学園 武蔵野 中村 修徳 関東第一 多摩大学目黒 浦田女子 東京実業 駒場学園 日本大学第三	実践学園 堀越 巢鴨 淑徳巣鴨 豊南 八王子学園八王子 八王子実践 立志舎	三浦学苑 横須賀学院 向上 横浜翠陵 柏木学園 桐蔭学園	山梨 山梨学院 日本航空	
兵庫 夙川	その他 高校卒業程度認定試験・大学入学資格検定 外国の学校等	茨城 土浦第二 土浦第三 取手第一 藤代紫水 取手松陽 中央 坂東清風 明秀学園日立 常磐大学 水戸啓明 霞ヶ浦 東洋大学附属牛久 江戸川学園取手 鹿島学園 翔洋学園		長野 上田染谷丘	晴海総合 飛鳥 杉並総合 美原 大泉桜 新宿山吹 葛飾総合 王子総合 錦城学園 正則学園 二松学舎大学附属 中央学院大学中央 開智日本橋学園 山脇学園 関東国際 郁文館 京華商業 昭和第一 獨協 成立学園 武蔵野 中村 修徳 関東第一 多摩大学目黒 浦田女子 東京実業 駒場学園 日本大学第三	実践学園 堀越 巢鴨 淑徳巣鴨 豊南 八王子学園八王子 八王子実践 立志舎	三浦学苑 横須賀学院 向上 横浜翠陵 柏木学園 桐蔭学園	愛知 星陵	
岡山 鹿島朝日	国際政治 経済学部			山口 精華学園	晴海総合 飛鳥 杉並総合 美原 大泉桜 新宿山吹 葛飾総合 王子総合 錦城学園 正則学園 二松学舎大学附属 中央学院大学中央 開智日本橋学園 山脇学園 関東国際 郁文館 京華商業 昭和第一 獨協 成立学園 武蔵野 中村 修徳 関東第一 多摩大学目黒 浦田女子 東京実業 駒場学園 日本大学第三	実践学園 堀越 巢鴨 淑徳巣鴨 豊南 八王子学園八王子 八王子実践 立志舎	三浦学苑 横須賀学院 向上 横浜翠陵 柏木学園 桐蔭学園	その他 高校卒業程度認定試験・大学入学資格検定 外国の学校等	
広島 呉港	北海道 札幌白石 札幌新川 石狩南 函館				晴海総合 飛鳥 杉並総合 美原 大泉桜 新宿山吹 葛飾総合 王子総合 錦城学園 正則学園 二松学舎大学附属 中央学院大学中央 開智日本橋学園 山脇学園 関東国際 郁文館 京華商業 昭和第一 獨協 成立学園 武蔵野 中村 修徳 関東第一 多摩大学目黒 浦田女子 東京実業 駒場学園 日本大学第三	実践学園 堀越 巢鴨 淑徳巣鴨 豊南 八王子学園八王子 八王子実践 立志舎	三浦学苑 横須賀学院 向上 横浜翠陵 柏木学園 桐蔭学園		
山口 松陰					晴海総合 飛鳥 杉並総合 美原 大泉桜 新宿山吹 葛飾総合 王子総合 錦城学園 正則学園 二松学舎大学附属 中央学院大学中央 開智日本橋学園 山脇学園 関東国際 郁文館 京華商業 昭和第一 獨協 成立学園 武蔵野 中村 修徳 関東第一 多摩大学目黒 浦田女子 東京実業 駒場学園 日本大学第三	実践学園 堀越 巢鴨 淑徳巣鴨 豊南 八王子学園八王子 八王子実践 立志舎	三浦学苑 横須賀学院 向上 横浜翠陵 柏木学園 桐蔭学園		

教育研究振興資金の2022年度入金額と資金の用途について

本学では2007年12月から「二松学舎教育研究振興資金」の募金活動を開始し、皆さまのご協力により、2022年度では79,193千円（右表（B）欄）のご寄付をいただきました。本学の教育研究活動、教育環境整備および学生支援に対し、多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

ご寄付いただきました寄付金は、学内で検討した結果、2021年度からの繰越金95,441千円（右表（A）欄）と合わせて、資金の用途を次のように決定しましたので、お知らせいたします。（残額は全て2023年度へ繰り越します。）

これからご協力のほど、何とぞよろしくお願い申し上げます。

寄付金の主な用途（用途別）

- 1 大学の教育環境整備＝九段3号館・4号館・柏キャンパスネットワーク整備の一部に使用、残高は2023年度へ繰越
- 2 附属高校の教育環境整備＝全額2023年度へ繰越
- 3 附属柏高校の教育環境整備＝全額2023年度へ繰越
- 4 附属柏中学校の教育環境整備＝全額2023年度へ繰越
- 5 学生・生徒の奨学金の基金＝学校法人二松学舎奨学金基金（第3号基本金）への組み入れ
- 6 被災学生・経済的困窮学生への支援＝経済的困窮学生への奨学金として支出
- 7 用途を指定しない＝学校法人二松学舎奨学金（第3号基本金）への組み入れ、奨学金として支出、附属高校野球部甲子園出場支援費用として支出、残高は2023年度へ繰越

内訳表

用途	2021年度からの繰越(A)	2022年度の寄付金(B)	合計(A)+(B)	2022年度取崩額(C)	2023年度への繰越(A)+(B)-(C)
大学の教育環境整備	172	4,503	4,675	4,560	115
附属高校の教育環境整備	15,648	2,061	17,709	0	17,709
附属柏高校の教育環境整備	855	690	1,545	0	1,545
附属柏中学校の教育環境整備	963	663	1,626	0	1,626
奨学金の基金	120	750	870	550	320
被災学生・経済的困窮学生支援	135	767	902	902	0
用途指定なし	79,717	70,490	150,207	67,949	82,258
小計	97,609	79,924	177,533	73,960	103,573
振替手数料等	△2,168	△731	△2,898	—	△2,898
合計	95,441	79,193	174,635	73,960	100,674

（注）金額は千円未満を四捨五入しているため、合計など数値が計算上一致しない場合があります。

二松学舎「創立145周年記念募金」のお願い

学校法人二松学舎では、「二松学舎教育研究振興資金」の寄付金募集を行っておりますが、昨年度に引き続き、『創立145周年記念募金』として募集しております。寄付金は用途を指定することができ、さらに、税制上の優遇措置が受けられます。（確定申告のお手続きが必要です。）

お申し込み方法の詳細につきましては、本学ホームページをご覧ください。ホームページからクレジット

カード・ネットバンキング等で直接申し込みが可能です。スマートフォンで右下のQRコードから簡単にアクセスできます。

または、下記にご連絡いただければ、専用振込用紙をお送りいたします。

何とぞ、募金活動の趣旨をご理解いただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



お知らせ

寄付者ご芳名の掲載が変わります

これまで「二松学舎新聞」で掲載しておりましたが、今後はホームページ上でご芳名のみ掲載に変更いたします（2022年11月1日以降入金事務処理が完了した方より）。ご寄付下さった方で、ホームページ上でのご芳名掲載を辞退される方につきましては、下記までご連絡をお願いいたします。（インターネットから申し込みされ、辞退を選択した方はご連絡不要です。）

企画・財務課

☎ 03-3261-1298（月～金 9:00～17:00）
✉ k-zaimu@nishogakusha-u.ac.jp

学校法人二松学舎、R&I社の格付けで「A-(安定的)」を維持

学校法人二松学舎は、3月29日付で株式会社格付投資情報センター（R&I）から、発行体格付け「A-(安定的)」の格付けを取得した。同評価は2006年から18年連続となる。

今回は安定的な学生・生徒数の確保、柏高校の進学実績向上等を背景とした良好な財務状況、新たな長期ビジョン「N'2030 Plan」の着実な実施状況について高い評価を得た。

145年の歴史をたどる

2022年10月に創立145周年を迎えた二松学舎。145周年事業の一環として、二松学舎のこれまでの歴史を1冊にまとめた『明治10年からの大学ノート145周年記念版』を2023年2月に刊行した。書籍は学生・生徒・学校関係者に配付した。



編者：二松学舎小史編集委員会
定価：1,000円＋税

2022年度卒業式

はばたけ！ 二松学舎生

各設置校で2022年度卒業式が行われました。
満開の桜に見送られ、笑顔があふれる式典となりました。
その様子をお伝えします。



大学・大学院

2023年3月15日
中野サンプラザホール



厳粛に執り行われた式典

2022年度二松学舎大学・大学院学位記授与式が行われ、卒業生・修了生計731名が新たな一歩を踏み出した。

江藤茂博学長は卒業証書・学位記授与に続く告辞で「人として正しいことは何か、人としてなすべきことは何かをいつも問い続けていただきたい」と卒業生にメッセージを送った。

水戸英則理事長の祝辞は書面で配付され、新しい時代を切り開いていく卒業生に向け、①変化を受け入れ、

日々新たな気持ちで取り組むこと、
②常にモラル、道徳心を持って事柄を判断し、行動するという2点をあげ卒業生にエールを送った。

卒業生代表・大貫龍之介さん（文学部中国文学科）は答辞で「『予測困難な時代』という表現を、身をもって体感した4年間だったように思います」と大学生活を振り返った。

式典終了後には恩師や友人たちと楽しそうに記念撮影をする卒業生の姿が見られた。



卒業証書・学位記授与の様子

附属高校

2023年3月1日
日本教育会館一ツ橋ホール

第73回卒業証書授与式が挙行された。昨年まで、会場への参列は卒業生と教職員に限定していたが、今年は保護者（最大2名）も参列。生徒・教職員は式典全体を通じてマスクを外して参加するなど、従来に近い形で式典が行えたのは実に4年ぶりとなった。

鵜飼敦之校長は式辞で「コロナに翻弄されてきた皆さんの心中を思うと胸が痛みます」とした上で「逆境にあっても焦らず、常に前を向き、一步一步着実に歩みを進めていくことを願っています」と卒業生にエールを送った。

生徒会長の岡田さくらさんが送辞、前生徒会長の富田尚鴻さんが卒業生代表として答辞を述べ、後輩たちにメッセージを送った。

入学式が開催されないまま高校生

活をスタートさせた73期生201名は、会場に集まった多くの保護者に見守られ、晴れやかな表情で新しい世界へと羽ばたいていった。



鵜飼敦之校長の式辞



岡田さくらさんの送辞

附属柏高校

2023年3月3日
体育館

第52回卒業証書授与式が体育館で挙行された。引き続き感染防止対策を行いながらも、入退場時のマスク着用は任意とした。

七五三和男校長は式辞で、成人年齢を迎え大人の仲間入りをする卒業生たちに、一人の大人として社会と関わり、責任を果たしていくことが大切だと述べた上で、論語にある「『子、四つを以て教う。文（知識を得ること）、行（得た知識を実践行動すること）、忠（真心を尽くすこと）、信（信



式典の様子



卒業証書授与の様子

頼を得ること）』を大切にしてほしいと思います」と卒業生に語りかけた。

卒業生代表・竹内明日香さんは「感染症対策を行いながらの学校生活でしたが、そんな中でも充実した学校生活を送ることができました」と感謝の気持ちを述べた。

満開を迎えた校内の梅の花に見送られながら、卒業生たちは3年間の感謝を胸に、晴れやかな表情で新しい世界への一歩を踏み出した。

附属柏中学校

2023年3月17日
体育館

第10回卒業証書授与式が挙行された。附属柏高等学校の卒業式と同様、入退場時のマスク着用は任意として式典を行った。

七五三和男校長は卒業生94名一人一人に卒業証書を手渡し、続く式辞で、「今後出会わざるをえない予測困難な問題に直面した際、正しく適切な判断を下すためにも、生涯にわたって学び続ける気持ちと態度が必要です」と義務教育を終え、高校での学びをスタートさせる生徒たちに

向けてアドバイスを送った。

黒澤舞南さんによる卒業生代表の言葉は、3年間の思い出を振り返り、「何かしらの制限がある3年間でしたが、だからこそ、目の前にある小さな幸せに気付くきっかけになりました」と共に学んだ仲間や先生方への感謝が伝えられた。

卒業式後は「卒業を祝う会」が実施され、思い出スライドの上映や、生徒たちからお世話になった先生への花束贈呈が行われた。



一人一人に卒業証書が授与された



思い出が詰まった教室での集合写真

表彰および称号授与

永年勤続表彰

2023年3月31日付

永年勤続者として以下の大学教員2名が表彰された。

30年勤続 鈴木 朝生 教授 | 河原田有一 教授

舎友

2023年4月1日付

以下3名に舎友の称号が贈られた。

高柳 幸雄 | 毛塚 梨花 | 三角 治

舎友の称号は、法人役員として1期以上在職した者、法人評議員として2期以上在籍した者、教職員として20年以上勤務した者、大学・高等学校の役職者として通算5年以上在職したものに贈られる。

叙勲

大地武雄名誉教授が瑞宝小綬章を受章

4月29日、2023年春の叙勲が発令され、本学の大地武雄名誉教授が教育研究功勞として、瑞宝小綬章を受章した。

明治21年に制定された瑞宝章は、公務等に長年にわたり従事し、特に成績を挙げた方々に授与される日本の勲章の一つである。

大地名誉教授は、1982年より二松学舎大学に勤務。以来、文学部中国文学科などで32年間教壇に立ちながら、学務局長や教育開発センター長を務め、多くの学生を教師として社会に送り出すなど本学の教育・研究活動に貢

献した。また、所属する全国漢文教育学会では長きにわたり評議員や理事・副会長などの要職につき、我が国の漢字漢文教育の充実発展に寄与。研究面では六朝（陶淵明）、唐代の文学研究に努める。赤十字活動への取り組みも長年行っており、それらの功績が評価された。



設置校NEWS

このコーナーでは、大学、附属高等学校、附属柏中学校・高等学校でのさまざまな行事や学生・生徒の皆さんの様子をピックアップしてお届けします！

大学

2023年2月28日

教員対象 FD講演会実施

FD (Faculty Development) とは、教育内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取り組みのことを意味する。本学では、秋学期の全学FD講演会に栗田佳代子氏（東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化・効果検証センター教授兼副センター長兼高等教育推進部門長）を講師に迎え、教員が自身の教育活動を俯瞰し可視化することで自己省察を行い教育改善につなげるティーチング・ポートフォリオ・チャートを作成するワークショップを行った。

53名の専任教員が参加し、今後の教育活動向上のヒントを得た。



自身の教育活動を客観的に振り返る機会に

大学

2023年3月4日

文学部シンポジウム開催

創立145周年と歴史文化学科開設を記念したシンポジウム「日本と西洋 歴史・文化の交差—三島中洲・渋沢栄一が生きた時代の異文化理解—」が、対面（九段1号館中洲記念講堂）とオンラインのハイブリッド形式で開催され、多くの聴講者を得た。

シンポジウムでは、江戸・明治時代の日本と西洋の関係について、学内外から参加した登壇者が異文化理解の観点から多角的に考察した研究を発表し、総合討論を行った。



活発な意見交換が行われた

大学

2023年3月18日

歴史から感染症を考える

創立145周年と歴史文化学科開設を記念し、本学と活字文化推進会議主催、読売新聞社主管の「活字文化公開講座」が開催された。会場参加型は多くの応募が寄せられ、抽選で選ばれた200人が会場、1,400人がオンラインで聴講した。

「歴史を学び、生きる力を高める～感染症の日本史～」をテーマに、国際日本文化研究センター教授の磯田道史氏が講演。第2部では、本学文学部の教員4名と磯田氏によるトークセッションが行われ、盛況のうちに幕を閉じた。



歴史学者の磯田道史氏

附属高校

2023年1月10日

校内百人一首大会

3学期の始業式終了後、第20回校内百人一首大会が附属高等学校の体育室で開催された。

年末のクラス予選を勝ち抜いた1・2年生の各クラス代表者と3年生の有志の生徒が出場した今大会。上の句が詠み上げられると体育室中に札をはじく音が響き渡り、下の句を待たずに勝敗が決まるハイレベルな戦いとなった。

運営はすべて図書委員の生徒が行い、読み手はかるた部の生徒2名が務めた。生徒主体の貴重な行事として、これからも伝統を重ねていきたい。



学年の壁を越えた熱く、静かな戦い

附属柏中学校

2023年2月18日

探究論文自問自答発表会

附属柏中学校では、探究教育に力を入れており、そのひとつとして「自問自答プログラム」がある。3年生はその集大成として、自ら選んだテーマを1年間かけて8,000字の論文として仕上げ、各自で作成した資料をもとに、7分間のプレゼンテーション（成果発表）を行った。

本番では緊張しながらもしっかりと顔を上げ、自らのテーマについて深く考え、身振り、手振りを交えて発表する生徒の姿に、大きな成長が感じられた。



緊張しながらも堂々と発表する生徒の姿

附属柏高校

2023年3月23日～29日

ハンドボール部全国大会出場

第46回全国高等学校ハンドボール選抜大会（三重県）が行われ、附属柏高等学校のハンドボール部（男子）が出場した。

初戦は3月24日、三重県立四日市工業高等学校と対戦。前半・後半共に互いに点を取り合う展開が続く接戦だったが、惜しくも29対25で敗退するも、次につながる価値のある大会となった。部長の今岡煌一朗さんは「夏のインターハイでもう一度全国の舞台に立ちリベンジするべく仲間と共に精進していきたい」と意気込みを語った。



男子ハンドボール部のメンバーたち

人事

役職任命

2023年4月1日付

- 学長 中山 政義 教授 (新)
- 副学長 高岸 直樹 教授 (新)
- 文学研究科長 山口 直孝 教授 (再)
- 国際政治経済学研究科長
兼国際政治経済学部長 佐藤 晋 教授 (再)
- 文学部長 江藤 茂博 教授 (新)
- 学務局長 須藤 和敬 教授 (新)
- 附属図書館長 押野 洋 教授 (再)
- 東アジア学術総合研究所長 岩田 幸訓 教授 (新)
- 国際交流センター長 塩田 今日子 教授 (新)
- 教職課程センター長 矢持 昌也 特別招聘教授 (新)
- キャリアセンター長 中垣 陽子 教授 (新)

定年退職

2023年3月31日付

- 文学部 高澤 浩一 教授
- 国際政治経済学部 鈴木 朝生 教授
河原田 有一 教授
高野 和基 教授
- 附属柏中学校 山本 眞裕 教諭
- 大学職員 高柳 幸雄 参与
毛塚 梨花 参与
三角 治 主査

新任教職員紹介

2023年4月1日付

大学教員

文学部

- 妹尾 好信 特別招聘教授 (国文学科)
専門：平安時代和歌文学、歌物語
- 土井 清美 准教授 (都市文化デザイン学科)
専門：文化人類学
- 関 俊史 講師 (中国文学科)
専門：中国書学・書道史、書道実技

国際政治経済学部

- 阿部 和美 講師 (国際政治経済学科)
専門：国際協力論、東南アジア研究
- 大塚 敬子 講師 (国際政治経済学科)
専門：国際法
- 古田 拓也 講師 (国際政治経済学科)
専門：政治思想史

大学職員等

- 花川麻実子 特別任用講師 (国際政治経済学科)
専門：英文学
- 中村 行彦 参事 (二松学舎サービス株式会社・出向)
- 鈴木 賢吾 参事補 (教学事務部入試課係長)
- 平 慧子 参事補 (キャリアセンター事務部
キャリアセンター事務課係長)
- 大野木 優 主査 (教学事務部学生支援課)
- 佐々木流成 書記 (教職課程センター事務室)
- 米澤華杏子 書記 (総務・人事部広報課)

附属柏高校教員

- 池田 卓馬 教諭 (担当科目：理科)

溝口貞彦氏(名誉教授) 2022年12月26日逝去。満84歳。(1938年～2009年在職) 教授として着任後、文学部教授、教職課程長を務めた。2018年瑞宝小綬章受章。

神戸仁彦氏(名誉教授) 2022年6月24日逝去。満81歳。(1971年～2011年在職) 講師、助教などを経て教授に昇任。文学部教授、その後、国際政治経済学部教授を務めた。

訃報
謹んでお悔やみ申し上げます。